

努力は人を輝かせる

紀宝町立矢渕中学校3年 正嶋 美拓

「自分のことは好きですか」学校のアンケートでよくあるこの質問。私は、毎回、「普通」と答える。自分が好きだという感情を感じたことがなく、どのような感情なのかを理解していないからだと思う。私は、自信を持って自分のことを好きだと言える人のことを心の底から尊敬するし、私もそうなりたいと考えている。けれど、毎日を過ごすたびに自分の悪いところを見つけ、どんどん自分のことを嫌いになっていく自分がある。人の良いところはすぐに見つけることができるのに、自分のことになるとなかなか見つからない。そんな時、自分のことを少し好きになるきっかけとなった出来事があった。

それは部活中のことだった。私はバスケットボールを始めて一年とちょっと。先輩から誘ってもらい、何気なくバスケットボール部に入った。周りの子はバスケットボールを小学生からしている子が多く、みんなに置いていかれるのを日々感じていた。バスケットボールのルール、プレー、オフィシャル等覚えることが多すぎて頭がこんがらかることが多かった。三年生との最後の試合となる中体連。結果は敗北だった。県大会に行くというみんなの夢を叶えることはできなかった。とてもくやしかった。もっと上手になって、たくさん点を決めることができていたらと、私は、自分自身の不甲斐なさに失望した。そこで私は決意した。

「必ず、次は県大会に行って、三年生に恩返しするんだ」と。その日から私は、今まで以上に毎日バスケットボールに打ち込んだ。部活が終わって、家に帰ってからも、外が暗くなるまで、お父さん、妹と一緒に自主練習をし続けた。そうすると、次第にできるプレーが増えてきた。しかし、途中でバスケットボールをするのが楽しくなくなってしまい、自主練習をやめてしまった時もあった。そんな時は、あの日のことを思い出し、自分の弱さに向き合って、自分を立て直すことができた。そして、待ちに待った試合の日。一勝一敗。県大会に行けるのか決まる大事な一戦。試合は、今までにないくらいの接戦だった。残り十九秒でキャプテンがフリースローを2本とも決めて同点。会場が緊張した空気であふれていた。残り五秒。絶対に勝つ。私は全速力で走った。ボールがとんできた。私はゴール下でパスを受け取った。すぐにゴールに向かってボールを放す。その瞬間、今までに聞いたことがない大きな歓声が、会場に響いた。得点を見ると、二点差で逆転していた。必死すぎてシュートを入れたときの感覚は全く覚えてはいなかった。そのまま残り三秒ディフェンスで守り切り、県大会出場を手にすることができた。皆で泣いて喜び、後輩の目にも、涙がいくつも浮かんでいた。私はそのとき思った。今まで練習してきてよかったと。つらいことや苦しいこともたくさんあったけれど、それを乗り越えてこれたことは、自分に自信を持つことができ、成長することができたと感じられた出来事だった。このことをきっかけに、私は、自分自身の強みと弱みについて理解し、自分のことをよく知ることができた。そして、自分としっかり向き合って自分自身を理解しようとすることはとても大切なことで、日々過ごしていく中で必要なことだということを学ぶことができた。

これからも私は、色々なことに挑戦し、努力していこうと考えている。また、自分自身としっかり向き合い、理解して自分の事をもっと好きになっていきたい。